



男女共同参画推進室ニュースレター

olive・heart

デートDV防止研修会「デートDVって何？」開催報告

11月1日(木)教育学部棟621教室で、安心して働ける・学べる安全な環境づくりの一環として、NPO法人レジリエンスの中島幸子氏を迎え、デートDV防止研修会を開催しました。研修会には教育学部・法学部の学生を中心に、一般の方も含め105名が参加しました。

中島氏から「DVのような関係性の暴力は全ての人間関係に起こり得るもので、精神的・身体的等暴力によって相手を、思いのままに支配・束縛する事である、お互いを尊重する気持ちなしでは暴力はなくなる」とお話がありました。

友達・カップル・夫婦…人間関係も様々ですが、本人は相手を尊重していると思っても、「テレビのチャンネルを相手に聞かずに変えること」も「相手の好みを頭ごなしに否定すること」もベースに支配関係があると暴力的になってしまうこと、相手の気持ちに寄り添っていない行為が増徴するとDVにつながる可能性が高いことが指摘されました。また、「暴力によるトラウマの記憶は8割が身体に、2割が脳に蓄積される」と暴力体験が身体と脳に深く影響を与えることについて言及されました。



中島氏は被害者の事を☆さん(自ら輝いていく存在)、加害者の事をBさん(batterer: 暴力をふるう人)と呼んでいます。被害という側面ばかりに焦点を当てることでさらに傷付けることがないように☆さんと敬意を込めています。☆さんという呼び方ひとつにも、当事者への配慮と尊重を感じさせます。

その後、中島氏を交えてハラスメント相談員や教員、心理専攻の学生に向けた「相談対応のスーパーバイズ(助言・指導)」が開かれました。デリケートな問題に加え、ケースが多様化・複雑化する中、DVやデートDVについて学ぶべきことが多い内容でした。



女性に対する暴力をなくす運動



11月25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」です。配偶者からの暴力、性犯罪、売買春、セクシャル・ハラスメント、ストー

カー行為や人身取引など女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するもので、決して許されるものではありません。この運動期間をきっかけに、女性に対する暴力のない社会づくりを進めましょう。

目次:

- デートDV防止研修会 ... 1
- 男女共同参画週間 ... 2-3
- 男女共同参画推進体制継続 ... 4
- 香大っこサポーター活躍 ... 5
- 柳田邦男講演会 6
- 幸町キャリアデザイン講座 ... 7
- 出前講座 8

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム 開催報告

11月30日(金)、かがわ国際会議場を会場に、中国四国の大学や関係機関の協力のもと、中国四国男女共同参画シンポジウムが賑やかに開催され、122名の方にご来場いただきました。

開会の挨拶では、長尾省吾学長より「これからは、女性が日本経済を救う、中国四国地方において女性研究者を支援し、男女共同参画社会を推進し地域活性を目指す」とシンポジウムの趣旨が語られました。

また、浜田恵造香川県知事が「柔軟で持続可能な社会を形成するために、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現していくことが求められる」と話されました。そして、文部科学省基盤政策課板倉周一郎課長より「回を重ねるにつれて、各大学の連携が深まり、創意工夫を凝らし地に足の着いた取り組みが広がっている」と前向きなご挨拶をいただきました。

基調講演に立たれた小籠香椎子氏(JST男女共同参画主監・日本女子大学名誉教授)は、ご本人が研究者として活

躍されるだけでなく、後進を育てる事にも尽力され、小籠研では、多数の女性研究者を輩出。次世代の研究者を女性研究者が育てる事も重要であるとお話されました。日本の女性研究者の数は世界と比較できないほど少なく、ライフステージの中で研究を断念せざるを得ない女性が多いこと、その対策として、リーダーのロールモデルを示し、継続的に施策を実施することで、しっかりと組織的に意識改革を行っていくべき、と述べられました。小籠研究室は、先生ご自身が3人の子育てに取組まれたこともあり、研究室に身近なロールモデルがたくさんあることで「自分にも出来るかも？」と仕事や家事を諦めず、両立している卒業生が多いというエピソードも語られました。

実践交流では、香川高専・内田由理子氏、広島大学・坂田桐子氏、岡山大学・沖陽子氏から、それぞれの独自の取り組みについてご紹介いただきました。

大学と比べ教職員、学生共に男性色の強い高専では、全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信を行っています。広島大学では女性研究者養成システム改革加速プログラムを実施し、採用促進の永続的システムを構築し、女性研究者総覧の作成などのキャリアアップ支援にも取り組んでいます。また、岡山大学は、ウーマン・テック・トラック制の導入及び、学内における普及・定着に取り組み、若手女性研究者を確実に育てるシステムを紹介しました。最後に、国立女性教育会館・野依氏より大学における男女共同参画の調査の中間報告がありました。

各機関の特色のある取り組みや経験を参加者で共有する貴重な機会となりました。



長尾学長より
開会の挨拶



浜田県知事より
挨拶



板倉課長より
挨拶



小籠氏基調講演



香川高等専門学校 内田氏



広島大学 坂田氏



岡山大学 沖氏



国立女性教育会館 野依氏

「ともに協働環境の構築へ」
中国四国地域の未来を拓く

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム

11/30 11:30-17:00
入場無料

かがわ国際会議場
香川県立香川大学 香川キャンパス
香川県高松市香川1-1-1



*中国四国国立大学のご協力での「中国四国男女共同参画推進連携会議」も正式に発足しました。

横の繋がりをさらに広げる情報交換の場となったランチ交流会。瀬戸内の美しい景色とおいしい食事は好評でした。

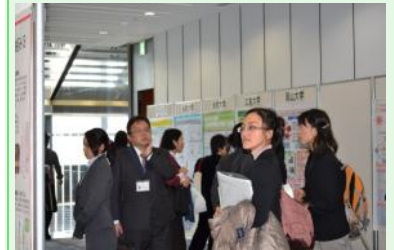


ALICE IN TAKAMATSU

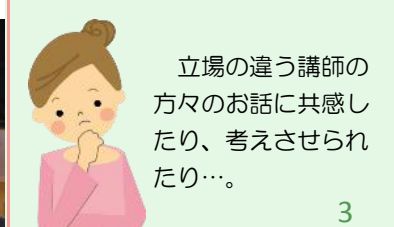
PHOTO GALLERY



うどん県を板倉課長にPRする浜田県知事

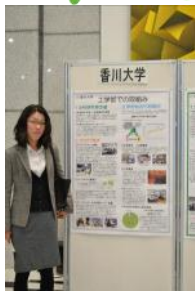


それぞれの大学の特色ある取り組みに、皆さん興味津々



立場の違う講師の方々のお話に共感したり、考えさせられたり…。

ポスターセッションでは推進室員の先生方のご協力の下、各学部の取り組みについて参加者の皆様にご発表いただきました。シンポジウムに来られた他大学の取組みも掲示され、「参考になった」「直接先生からの説明を受けて良かった」との意見がありました。先生方、ご協力ありがとうございます。



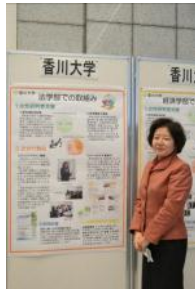
工学部
野々村先生



農学部
別府先生



教育学部
松本先生



法学部
平野先生



経済学部
松岡先生



医学部
森上先生

パネルディスカッションでは様々な立場のパネリストの皆様におひとり様育児から共育へのステップへをテーマに、研究と育児の両立について意見交換の場が設けられました。子育てを夫婦で共有するために、男性側からは育児の関わり方を発表される一方、女性側は職場や社会に理解を得るためにどんな努力をしているか等、研究と育児の両立の難しさが話題になりました。そして、男性が語る家事奮闘記も大変興味深いものでした。次世代育成に向け、この“難しさ”を解消するためにも、社会的な支援の充実や職場の理解を広げていくことが求められます。



パネリストの皆様、興味深いお話 ありがとうございました

香川大学教授	小川 雅廣 氏
徳島大学大学院准教授	阪間 稔 氏
愛媛大学研究員	槻木 玲美 氏
産業技術総合研究所四国センター特別研究員	山本 裕子 氏
NPO法人わははネット理事長	中橋 恵美子 氏
香川大学総務・研究担当理事	板野 俊文 氏
文部科学省科学技術・学術政策局課長	板倉 周一郎 氏

4時間を超えるシンポジウムでしたが、内容が濃く、あっという間に閉会となりました。推進室室長高木理事から「新しいアイデアや意見を取り込んで、これからの中国四国大学の連携がますます発展することを期待しています」との閉会の挨拶がありました。

男女共同参画の取り組みは一時的なものではなく、継続的、持続的に活動し積み上げていくことが大切なのだ、と改めて気づかされました。「中国四国男女共同参画シンポジウム」の継続とともに、大学、企業、行政、市民がともに男女共同参画の視点に立って、繋がりあいながら、地域の活性化をめざして行きたいと思えるシンポジウムになりました。



高木理事より
閉会の挨拶

香大の女性研究者 採用促進の取り組み

事業の中間自己評価

男女共同参画推進委員会

低い採用の伸び

各部長への室長のヒアリング

部局の実情を調査

副室長による女性研究者採用 促進具体策への意見聴取

部局の要望を調査

四国連携大学 男女共同参画 及び女性研究者支援アンケート

四国採択大学による 合同評価セミナーの開催

連携大学からの事業評価

四国採択大学による 合同評価セミナー報告会開催

女性研究者採用にむけた具 体的な方策の承認(役員会)

部局の要望を実現

女性研究者採用にむけた具 体的な方策の決定(部局長等会議)

女性研究者採用にむけた 具体的な方策の実施

(目標未達成部局に対して)
公募要綱への女性優遇の明記
女性研究者採用計画の提出
女性研究者着任時の研究費支給
女性限定テニュアトラック等

[めざすところ]

女性研究者比率 19%
女性研究者採用比率 25%
(香川大学構想会議資料参照)

継続 決定!!



推進室の取り組みは
来年度も継続します。

男女共同参画推進体制の継続と女性研究者採用促進

今年度が一番大きなイベント「第4回中国四国男女共同参画シンポジウム」を無事終了することが出来ました。平成22年度から始まった香川大学の女性研究者支援モデル育成事業は、この3月で事業実施期間を終えることとなります。採択期間終了後も、香川大学男女共同参画推進基本理念や基本方針に従い、中期目標の「ジェンダーバランスに配慮した採用と登用」をめざし、女性研究者の積極的な採用や、学内の男女共同参画の推進体制を継続して進めていくことが、10月の役員会、そして11月の部局長等会議で決定しました。学内の皆様のご協力とご理解のたまものです。

右ページのポスターはJSTの事業報告のために作られたものですが、今回の取り組みは、採択プランに基づき、4つの目標を掲げて取り組んできました。



1. 学内の女性研究者の比率を本事業終了時まで19%以上にする
2. 自然科学系大学院の女子学生の比率を25%以上とすること
3. 科学研究費補助金に自然科学系女性研究者が全員応募するとともに、採択率が全国平均と同等となるようにすること
4. 事業終了時の育児等を行う女性研究者への支援満足度調査で8割以上から良好な回答を得ること



女性研究者の比率は、18.5%とまだ目標には及びませんが、自然科学系の女子学生の割合は、既に27.4%と超えています。増えている女子学生の満足度をあげていくためにも、女性教員の存在は欠かせません。

今回「女性研究者採用に向けた具体的な方策」として新たに目標未達成部局に向けて、女性採用の5か年の目標を求めていくこと、女性優遇を採用の段階から打ち出していくこと、女性研究者着任時の研究費支給、女性限定のテニュアトラックの導入が承認されました。工学部では、初めての女性限定公募も実現し、少しずつですが、香川大学としての女性研究者採用への環境整備が整ってきています。採用後、香川大学の頼もしい構成員として、研究・教育を進めてもらうために、メンター等の受け入れ部局での育成・支援の体制も整えていくことになりました。

来年度以降は、女性研究者という枠を外し、男女共同参画の視点に立った取り組みにシフトしていきます。男性も女性も、教員も職員も学生も、香川大学の構成員が生き生きと学び・働き続けることが出来る大学づくりが求められています。1月には全学に向けて、「男女共同参画要望アンケート」を計画しています。今後とも引き続き、ご意をお寄せください。

科学技術人材育成費補助金

香川大学 香大発、地域ぐるみ女性研究者支援の高波を

実施目標

事業終了時の育児等を行う女性研究者の満足度8割以上とする
現在女性研究者比率18.5%

女性研究者比率目標
 事業申請時 17.1%
 事業終了時 19%
 それ以降 19%以上

採択率 7/17
 20.9% 7/17

科学研究費補助金への全員応募、採択率全国平均になるようにする

自然科学系大学院の女子学生比率25%以上とする

プロジェクト新図

女子学生の増加
 男性にも女性にも、学生にも職員にも優しい魅力ある大学へ
 女性教員の増加
 女性教員の増加

連携の成果 二つの共同宣言

中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言
 中国・四国地区国立大学 男女共同参画推進のための共同宣言

アプローチ1 学内の推進・支援体制の整備

学長による推進体制、基本理念・方針策定
 各学部に、女性研究者支援員・育成員を配置
 育児等に取り組む教職員の負担軽減

アプローチ2 相談、保育等の支援

病児施設新設、日本初病児移送サービス
 妊婦のための休憩室を兼ねた託児室設置
 休日出勤時の託児・サマースクール開催(学内経費)

アプローチ3 研究補助支援

延べ20名の全領域男女研究者に研究補助者を配置(H24年度より)
 研究促進のための研修会開催・科研費申請補助員新設(学内経費)

アプローチ4 学内意識啓発

啓発講座の開催・スポーツ講義の実施
 大学幹部との交流会(RJiIカフェ開催)

アプローチ5 未来の女性研究者育成

キャリアデザイン講座
 次世代育成出前講座
 相談コーナー・ロールモデル集

アプローチ6 学外の連携、連絡体制整備

県内女性研究者支援連絡会・SNS開設
 第1回四国女性研究者フォーラム継続開催
 かがわ教育男女共同参画フォーラム開催
 四国採択機関合同評価セミナー開催

アプローチ7 学内の諸制度の検討 女性の採用促進

女性限定公募による採用実現
 採用学部へのインセンティブ
 研究スタートアップ資金
 女性限定テニストラック導入

【男女共同参画推進室からの情報発信】

ワーク・ライフ・バランス啓発ポスター、冊子
 ロールモデル集
 ニュースレター
 シンボルマーク
 中間報告冊子
 リーフレット、相談カード、ポスター

PHOTO GALLERY

平成22年度

10.1 香川大学男女共同参画推進室設置

2.22 四国5国立大学男女共同参画共同宣言書

2.23 四国女性研究者フォーラム開催

平成23年度

8.18・19サマースクール医学部開催

8.11オープンキャンパス啓発コーナー

12.7 かがわ学校男女共同参画フォーラム

3.8 理事長部長との懇談会 RJiIカフェ

香大っこルームと香大っこサポーターが大活躍

男女共同参画推進室は託児ルームとして利用できます。

研修を受けた「香大っこサポーター」が子どもさんを安全にお預かりします。料金は1時間500円(要予約・時間帯は応相談)。

いつもは保育園だけど、今日だけどうしてもという時にとっても便利。

学生さんにとって、子どもと向き合う時間はワンコイン以上の貴重な経験です。預けた方からは『安心して講義に臨むことができ本当にありがたかったです。子どもは、とても楽しかったそうで、「次はいつ行けるの?」と、早くも次回を心待ちにしているようです。』とのうれしい報告が入っています。ご利用希望の方は、男女共同参画推進室までお申込みください。

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

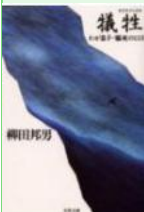


託児サービス



元気一杯でおしゃべり上手の子でした。一緒にいて楽しかったです。(香大っこサポーターAさん)

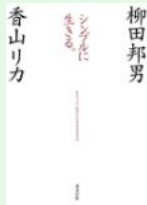
柳田邦男著書紹介



犠牲 (サリファイス)
わが息子・脳死の11日
文藝春秋

最新刊

シンプルに生きる。
清流出版



今回ご紹介いただいた本



声に出せないあかたな
天畠大輔著
生活書院

夜と霧
ヴィクトール・フランクル
みすず書房



福島・飯館
それでも世界は美しい
小林麻里
明石書店



千田病院長からお礼の言葉



室員 窪田教授より花束贈呈

柳田邦男講演会「あなたは人生にどんな答えを出すのか」

12月6日(木) 男女共同参画全学研修会 柳田邦男講演会を医学部キャンパスで開催しました。夕刻から開催の講演会でしたが、参加者は132名(男性44名、女性88名)と大変にぎわいました。医学部FDとして位置づけ、医学部・附属病院から124名、その他から5名参加しました。制服姿から、仕事の合間を縫って参加された方もいたようです。

森医学部長の開会の挨拶、清水教授の講師紹介の後、「人間性豊かな職業人としての医療人のあり方をぜひ伝えたい」という熱い思いを込めた柳田邦男氏のお話が始まりました。



優しい笑顔が印象的な柳田氏



人生の意味を熱く語られました



東北でがんを抱えながらも在宅医療と被災者支援に生き、最後まで自分らしく生きることを実践した岡部武医師。14歳の時、医療事故で意識不明になり、五十音表で言語を取り戻し、ボランティアに支えられながら大学院進学まで果たした天畠大輔君。7歳の時、不発弾の事故で両目両腕を失い、13年社会に置き去りにされ、入院先の看護師が読み聞かせてくれた本との出会いで、向学心に目覚め、教員資格を取り教員の道を開いた藤野高明さん。

人は何のために生きるのか?の問いに対して、「夜と霧」の著者ヴィクトール・フランクルの「われわれが人生の意味を問うのではなく、われわれが問われた存在なのである」という意味深い言葉を紹介し、どんな状況であろうと高い精神性で生き延びていく人間の崇高な生き方について示されました。最愛の夫の亡き後も原発事故の起こった福島で生き、著書「福島、飯館、それでも世界は美しい」を書き上げた小林麻里さん。其々の人生を介して、お話は深まっていきました。

「2. 5人称の視点」は、医療従事者の参加者には感慨深いものだったようです。自分の死は1人称、連れ合いの死は2人称、職業人の出遭う死は3人称。「乾いた3人称の視点」から「潤いのある2. 5人称」の視点への転換、そういう心掛けを持つことが求められる。人を支える時にちょっと配慮する、それは小さな行為だけど、相手の人生を大きく変えることがある。その行為が人を生き直させることにつながることもあると日常のケアの在り方についてまとめられました。

「人間は物語らなければわからない」という河合隼雄氏の言葉どおりに、クライエントの人生の文脈の中で、生きる意味を浮き上がらせることができる、温かな専門家としてのかかわりをぜひともめざして行きたいものです。

参加者からは、「生きる意味を考えさせられた」「心に沁みた」「感動した」等、大変好評でした。「もっと長い時間お話を聴きたかった」「学生を参加させるべき」など、積極的な意見も多く見受けられました。

最後に、附属病院千田病院長からお礼のお言葉があり、男女共同参画推進室員 窪田教授より花束贈呈、柳田邦男氏からお礼にと著書の贈呈のうれしいサプライズもありました。

柳田氏は、男女共同参画の研修会は初めてと話されましたが、多様な生き方に触れ、答を出していくという今回のテーマは、「ダイバーシティ」そのものでした。



森医学部長から挨拶



清水教授の講師紹介

第3回幸町キャリアデザイン講座 開催報告



10月24日(水)研究交流棟5階研究者交流スペースに於いて第3回幸町キャリアデザイン講座が開かれ、39名(学生:30、教職員:9)が参加しました。今回の講師3名は教育学部の卒業生で、就職活動や入社後の体験談などを話される講師は、現在就活中の学生の数年後を映し出したかのようでした。

就職氷河期と言われる時代も長く続いています、その時代を乗り切る為には「自分の売り」を見つけ、積極的にアピールすること、3名ともこの「売り」を強みに就活に励んだそうです。自分で「売り」と思っていることも、友達から見ればそれ以上の「売り」があったりします。友達同士で客観的に相手の長所を見つけていることが大切だとお話がありました。



就職も大切ですが、入社後のほうがもっと大切です。希望以外の部署に異動になったり、理想と現実の狭間で頭を悩ませたり。講師の方々は、それをする気に変換して頑張ったそうです。「自分に向いてない」「もう少し楽な仕事がいいなあ」なんて思っても、そこにやりがいを見出すべく「まずやってみる!」。そんなパワーを秘めた3名の講師のお話に、

参加した学生も聞き入りました。

交流会では和やかに質問を受ける3名の講師は、社会人としてのやりがいが見えたりしていました。学生の皆さんも就職後にイキイキと働くことのできる就活を!



ご存知ですか?MBA?



今回のキャリアデザイン講座にも取り上げたMBA(経営修士)。四国で唯一のMBA取得が出来るのが、香川大学大学院地域マネジメント研究科です。社会人になってからのスキルアップに取得を希望する方も多いですよ。地域に根差した経済人になるべく、女性の皆さんMBA取得を目指しませんか?

11/3(土) 農・工学部オープンキャンパス 相談コーナー

農学部収穫祭が賑やかに開催される中、学生相談コーナーを設置しました。農学部の魅力を熱く語る農学部生に、来場した高校生や保護者の方も理系に対する不安を解消した様子。香川大学で研究されている希少糖などに対する質問も飛び交い、農学部への興味の高さも窺えました。

工学部祭では「香川の発明工夫展」など、子ども向けのイベントを開催する中、未来の工学部生を発掘すべく、オープンキャンパスが開かれました。工学部独自のガールズパーティーなど、女子高生も興味津々。

研究の毎日、それだけじゃない理系の魅力が満載でした。



農学部の様子



工学部の様子



株式会社太陽社
倉岡杏名氏



JRホテルクレメント高松
北条沙織氏



香川トヨタ自動車株式会社レクサス高松
頼富友香氏

オープンキャンパス 相談コーナー

相談者数

*8月10日(金)

農学部:41名

工学部:30名

*11月3日(土)

農学部:33名

工学部:14名

高校生とともに保護者の方も多く訪れ、親子で不安を解消し、将来のイメージを高めていました。

学祭では、一般の参加者の方も気軽に大学の研究について尋ねていました。



スーパーサイエンスハイスクール

文部科学省が将来の国際的な科学技術系人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」と指定し、学習指導要領に寄らないカリキュラム開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習を支援する学校。高松第一高等学校では平成22年度より5年間指定を受け、香川大学も協力している。

日本女性技術者フォーラム

各企業や教育・研究機関などで、ともすれば孤立しがちな女性技術者相互の交流をはかり、業界を横断した研修の場を企画することで、自己啓発や人材活性化の機会を設ける。また、各種調査・研究などを行い、その結果を基に社会影響力のある提言も行っている会。



香川大学男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階

電話：087(832)1055
内線：1055
FAX：087(832)1057
電子メール：
sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp
ホームページ：
http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/

次世代育成プロジェクト出前講座 in 高松第一高等学校

11月16日(金)リケジョを目指す女子高校生にエールを送るべく、第2回出前講座が高松第一高等学校で開催され、1・2年生の143名の女子高生が参加しました。今回は、日本女性技術者フォーラム運営委員長菅原香代子氏をお迎えしての講演と、女子学生の活躍をぜひとも進めていきたい工学部の紹介がありました。

菅原氏は、お茶の水女子大学大学院修士課程終了後、株式会社日本IBMに入社以来、約30年間システムエンジニアとして世界を舞台にご活躍されました。ご自身のお仕事と、企業での女性の活躍の現状についてをわかりやすくご紹介くださった後、高校生向けに、自分の興味を活かすには、どんな職業がありどんな場所で働くのか、また、「夢をかなえるための道筋は1つではなく様々なアプローチ法がある」、「諦めなければ夢はかなう」ということを具体的な職種と共に示してくださいました。最後に女性の社会進出は、「日本国内はもちろん世界を舞台にこれから先どんどん広がっていく」という力強いエールに、たくさんの女子高生たちが目を輝かせていたのがとても印象的でした。

講演後、松下春奈助教、大学院生の高原加奈子さんによるご自身の研究内容の紹介、工学部 石井明教授による工学部の紹介がありました。工学部と工学系進路について具体的に知ることができたと好評でした。



10月16日 外部評価報告会が開かれました

9月12日開催の四国地域女性研究者支援モデル育成事業採択大学 合同評価セミナーの評価報告を行いました。外部からの提案と現場からの声を汲み上げるべく、室員間で意見交換をしました。今後の推進室の活動に活かせるよう、努力いたします。



休日出勤時の託児事業 ご利用ください

大学運営特別経費を活用しての休日託児申込締切は下記のとおりです。ご利用希望の方は男女共同参画推進室までご連絡ください。(協力:ボランティアあゆみ)

実施行事	会場	お預かり時間	申込締切
センター試験 1/19(土)	宗教法人薬王寺	7:30~19:00	12/25(火)
センター試験 1/20(日)	経済学部 東向い		

今年も大変お世話になりました

今年の4月で3年目に突入した男女共同参画推進室。教職員・学生の皆様のご協力のもと、多くの事業の成功を収めることができました。この場をお借りして、御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



来年は巳年。細く長く、事業を継続できるよう、頑張りたいと思います。来年も男女共同参画推進室の活動にご指導・ご鞭撻・ご期待のほど、よろしくお願いいたします。

